

彌永史郎／村松英理子 著

改訂新版

PCで学ぶ

ポルトガル語の発音

PORTUFONE

— PRONÚNCIA —

西東舎

SAMPLE

はじめに

本書はコンピューターでポルトガル語の発音を学ぶためのプログラム、PORTUFONE — Pronúncia の解説書です。

ポルトガル語には、大きく分けてヨーロッパのポルトガル語 (PE) とブラジルのポルトガル語 (PB) とのふたつの規範があります。東チモールならびにアフリカ諸国のポルトガル語は概ね PE に準じます。

本書では PE と PB の二様の規範を偏りなく解説し、音声プログラムには PE と PB とを別々に収録してあります。学習者はプログラムの冒頭で、どちらかを選択する仕組みになっています。

言語は音声です。ポルトガル語を短期間でマスターする必要があるという方は、本書で基礎的な音声を繰り返し自ら発音して体得することが早道でしょう。

音声プログラム上では、紙の本や単なるCDでは不可能な画期的な学習が可能です。音声プログラムにはPE, PBそれぞれに700以上の音声ボタンが配置されており、解説を読み、文字や音声記号を参照しながら、ブラウザー上のノンリネアルな音声ボタンを何度でも納得のいくまで繰り返し再生し練習出来るからです。一見単調な練習が音声を集中的に勉強するためには必要です。それと並行して順次簡単な内容からポルトガル語の口語や文語に親しんでいけば、現地での学習の能率が格段によくなります。それはポルトガル語の音のレパートリーを

理解すると、聞き誤りの可能性が減るからに他ありません。

また本書はすでにポルトガル語の素養のある方が PE, PB 両方の音声を比較しつつ研究する目的にも十分な情報を提供しています。

本書は大学書林刊、彌永史郎著『ポルトガル語発音ハンドブック』に概ね準拠し、オンライン音声アプリ「Portufone」と密接に連携しつつ、実用に即した簡潔な内容に改めるいっぽう、最新の研究成果も盛り込みました。本文は基本的に彌永が執筆し、本文中の音節に関する解説ならびに練習問題 (2, 3, 5, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 18, 20, 21, 23)、例の語の選定・音声表記は主に村松が担当しました。

第1版を上梓してから教材として実際に使用するうちに、いくつかの誤植とともに不十分な解説にも気づき、第2版(2009)から第4版(2011)と加筆修正のうえ練習問題を充実させてきました。また第5版(2014)では懸案の新正書法準拠のための修正を行いました。新正書法では表記が簡略化され、表記上 PE, PB がごく僅かな例外を残して統一されたことに大きな意義があります。

いっぽう第1版が世に出てから10年を経過するころになると、技術的な環境変化にともない音声プログラム本体の修正の必要が強く感じられるようになりました。そこで2019年春より模範発音の音声をすべて入れ替え、将来的な汎用性を見据えた改訂を開始しました。これを機に Portufone は携帯端末でも使用可能となったわけです。また、内容についても部分的に表現を刷新、音節に関する解説と補遺を加筆、改訂新版(2021)としました。あらたな音声の吹き込みは、PEはカーリーナ・サルダーニャ氏(大阪大学)、PBはフェリッペ・モッタ

氏（京都外国語大学）にお願いしました。PE, PB それぞれに収録された1,400以上の音声ファイルの作成作業は村松が担当、また彌永が作成したオンラインプログラムの修正・調整には柴田ゆり子、彌永沙也加両氏の入念な仕事に負っています。皆様の協力を得てこそ著者の思い描いていた企画が実現したことは誠に感慨深く、皆様に深く感謝致します。

外国語としてポルトガル語を使用していると僅かな発音の違いで思わぬ行き違いが起こることもあります。簡単な話がなぜか微妙な音声の取り違えで通じないこともあるでしょう。とりわけ、初歩段階で誤った音で記憶に定着すると修正は容易ではありません。したがって初歩の学習者が標準的な発音を身につけるためには、専門知識を有する教師の指導を得て正しい音声の修得に集中することがもつとも効率的です。

すでにポルトガル語の素養のある読者で自らの発音を見直したいという切実な願いを持つ読者もあるにちがひありません。ポルトガル語を学習した経験のある中級・上級者が、バックグラウンドのある専門家の指導のもとで、みずからの発音を矯正し、見逃していたかもしれない、音声上のより複雑な規則を学ぶには最適の道しるべとなることでしょう。また本書はPEとPBの音声を学術的・体系的に比較研究したいという読者の興味にも十分に答えることが出来ると信じます。本書がよりよいポルトガル語のコミュニケーションに役立つことを願って止みません。

2021年3月

著者

SAMPLE

目次

第1課	正書法と発音	15
1.0.	ポルトガル語の正書法	15
1.1.	音声器官と調音	15
1.2.	声	16
1.3.	口母音と鼻母音	16
1.4.	音と音素	17
	練習問題 1	17
第2課	母音	19
2.0.	ポルトガル語の母音の特徴	19
2.1.	音節	20
	練習問題 2	22
第3課	アクセント	23
3.0.	強きアクセント	23
	練習問題 3	24
第4課	前舌母音と中舌母音	25
4.0.	前舌母音	25
4.1.	中舌母音	26
	練習問題 4	27
第5課	後舌母音	29
5.0.	後舌母音	29
	練習問題 5	31

第6課	母音字 I/i, E/e の読み方	33
6.0.	母音字と補助記号	33
6.1.	強勢が置かれる場合	33
6.2.	強勢が置かれない場合	36
	練習問題 6	39
第7課	母音字 A/a, O/o, U/u の読み方	41
7.0.	強勢と音価	41
7.1.	強勢が置かれる場合	41
7.2.	強勢記号が置かれない場合	43
	練習問題 7	46
第8課	二重母音	47
8.0.	二重母音：正書法と実際の音声	47
8.1.	半母音 /j/ が後続する場合	47
8.2.	半母音 /w/ が後続する場合	48
	練習問題 8	50
第9課	連母音	51
9.0.	連母音と二重母音	51
9.1.	連母音と二重母音：分節の可否	51
	練習問題 9	52
第10課	鼻母音	53
10.0.	母音と鼻母音	53

10.1.	単鼻母音と二重鼻母音	53
10.2.	鼻母音：鼻母音をあらわす正書法	54
	練習問題 10	55
第 11 課	二重鼻母音 - 1	57
11.0.	下降二重鼻母音	57
11.1.	二重鼻母音の音声表記	57
	練習問題 11	59
第 12 課	二重鼻母音 - 2	61
12.0.	二重鼻母音と正書法の関係	61
12.1.	二重鼻母音の綴り字による表記方法	61
12.2.	二重鼻母音のカタカナ表記	63
	練習問題 12	64
第 13 課	紛らわしい音 - 1	65
	練習問題 13	66
第 14 課	子音の調音	69
	練習問題 14	70
第 15 課	破裂音	71
15.0.	破裂 - 閉鎖の解放	71
15.1.	両唇・破裂音	71
15.2.	歯・破裂音	71
15.3.	軟口蓋・破裂音	72
	練習問題 15	74

第16課	摩擦音 — 1	75
16.0.	気流の役割	75
16.1.	唇歯・摩擦音	75
16.2.	歯茎・摩擦音	75
	練習問題 16	78
第17課	摩擦音 — 2	79
17.0.	調音点による分類	79
17.1.	後部歯茎・摩擦音	79
17.2.	軟口蓋・摩擦音	81
17.3.	後部歯茎・破擦音	82
	練習問題 17	82
第18課	紛らわしい音 — 2	83
18.0.	日本語の干渉	83
18.1.	「ハ」行と「サ」行の音	83
18.2.	「ザ」行の音	85
	練習問題 18	86
第19課	接近音	87
19.0.	接近音：摩擦音との違い	87
	練習問題 19	89
第20課	r音.....	91
	練習問題 20	93

第21課	鼻音	95
	練習問題 21	96
第22課	音の同化	99
	練習問題 22	101
第23課	音調	103
23.0.	音調の機能	103
23.1.	平叙文と疑問文の音調	103
23.2.	疑問文の音調	104
	練習問題 23	109
補遺	リオデジャネイロの発音	111

SAMPLE

PCで学ぶ
ポルトガル語の発音
PORTUFONE
— Pronúncia —

SAMPLE

音声教材の使用法

- 音声教材 (Portufone — Pronúncia) を使用するにはユーザー登録が必要です。詳しくは巻末の登録方法解説をお読みください。
- 各課の模範発音には、Portufone の Lição 目次からアクセスしてください。目次の番号が各課の番号です。
- 練習問題には、Lição 目次の見出しにある Exercício のボタンから練習問題目次を開き、そのページから各課の練習問題へアクセスできます。

第 1 課 正書法と発音

1.0. ポルトガル語の正書法

ポルトガル語の正書法については19世紀の末に大きな改正が提唱されました。語源的な綴り方を音韻的な綴り方に改めようというのです⁽¹⁾。たとえば同じ/f/の音を表していた〈f〉と〈ph〉を〈f〉の文字に統一するなどです。こうして20世紀初頭に正書法の規則が定まり、つい最近の改正に至る約100年間を通じて僅かな変更をたびたび行った結果、現在の簡潔な正書法に至りました。ポルトガル語の正書法はきわめて音韻的であり、綴りと発音の関係を学ぶことが比較的容易な言語であると言えます。

1.1. 音声器官と調音

人間が肺から送り出される呼気をさまざまに変化させて色々な言語音を作り出すことを、調音と言います。調音には無意識のうちにさまざまな器官が関わっています。日常的には大雑把に口、喉などと呼ぶところは言語音の生成にかかわる音声器官で、専門的にはさまざまな名称がついています。調音の仕組みを知るにはこれらの音声器官の名称や働きを知ることが大切です。調音器官図でそれぞれの名称と機能を学びましょう。

1. ゴンサルヴェス・ヴィアーナ(A.R.Gonçalves Viana)の『正書法提要』(Bases da ortografia portuguesa, 1885)に遡る。この提案を受け公文書、教育で用いる新たな正書法を定めた『正書法規則集』Formulário Ortográfico (1911)がポルトガルで公布された。

1.2. 声

日常的に使う声を少し厳密に考えてみましょう。声帯は二本の筋肉の襞で、息をするときにはそれらの間に隙間が開いています。声を出そうとすると、まず声帯が閉じられ肺から送られてくる呼気がそこで遮断されます。声帯は柔軟な筋肉の襞ですから、呼気の圧力がある程度高まれば自然に開きますが、すぐに元に戻ろうとして閉じます。この開閉が高速で繰り返されることによって振動がおり、音が生じます。これが声です。

1.3. 口母音と鼻母音

声は何の障害物もなく口腔を抜けて外に出るときに生成される音が口母音です。いっぽう、口腔だけでなく鼻腔も通過して声の外に出て行くと、独特の響きに加わった母音になります。これを鼻母音と言います⁽²⁾。

鼻母音を発音するには、鼻腔への空気の流れを遮断している口蓋帆を下げて、鼻腔へ呼気を導きます。口蓋帆の開閉によって声の流れを各自の意思で調整し口母音と鼻母音を比較してみましょう。

cito / 'sɪtu / — sinto / 'sĩtu /

seda / 'sedɐ | 'sɛdɐ / — senda / 'sẽdɐ | 'sẽdɐ /⁽³⁾

sá / 'sa / — sã / 'sẽ /

sou / 'so / — som / 'sõ /

mudo / 'muðu / — mundo / 'mũðu /

2. 音声教材 Portufone «Lição» の目次の 1 からアクセス. 以下同様.

3. ヨーロッパのポルトガル語 (PE) とブラジルのポルトガル語 (PB) で規範が異なる場合、本書では縦線の左にPE, 右にPBを示す. 以下同様.

1.4. 音と音素

人間の発する言語音は十人十色で、詳細に見れば同じ言葉といえども決して完全に一致することはありません。また同じ人が発した語にも時と場合により必ず微妙な違いがあります。しかしながら、ある言語の話者は、物理的にはそれぞれ微妙に異なる無限の変異を含む音について、抽象的な聴覚印象を共有しています。こうした聴覚印象を音素と呼びます。

音素は個人的な発音の違いや音声的に異なる様々な音の差異を度外視した音のまとまりで、ある言語における意味の違いをひきおこす最小の音の単位です。たとえばスペイン語ではふたつの音 [r] と [x] とが異なる音素と認識されるので ['baro] と発音すれば <barro> 「粘土」の意味となり、['baxo] と発音すれば <bajo> 「下方に」の意味になります。しかし、ポルトガル語では異なるふたつの音 [r] と [x] とが同じ音素と認識されるので <barro> を ['baru] と発音しても ['baxu] と発音しても「粘土」の意味は変わりません。このように調音は異なっても意味の区別には関わらない音をひとつの音素の異音と呼びます。

練習問題 1

音声器官の名称を学びなさい。

SAMPLE

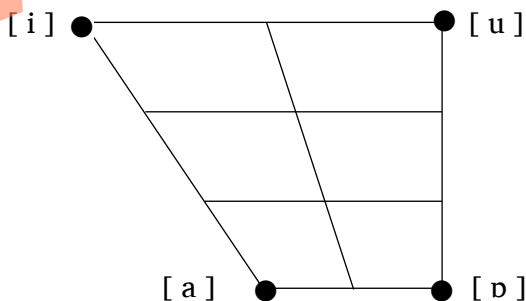
第 2 課 母音

2.0. ポルトガル語の母音の特徴

日本語とポルトガル語を比べると、日本語のほうが母音の数が少なく簡潔です。簡単に言うと、ポルトガル語を話すためには日本語で「エ」、「ア」、「オ」、「ウ」と聞こえる母音を2種類以上に発音し分ける必要があるということです⁴⁾。したがって、日本語の話し手としては、同じ音に聞こえる音を発音し分け、聞き分けることに習熟する必要があります。規範的にはPEとPBとでは、少し母音の数が異なります。

母音の音色は舌の高さ（高いか低い）とこれに連動した口の開き（開いているか閉じているか）、舌の前後の位置（前か後ろ）および唇の形（円唇か非円唇）の組み合わせで決まって来ます。

母音四角形の図上、頂点にある [i][u][a][ɒ] は、舌の前後の位置および口の開きの限界点です。これらの限界を意識した上で、ポルトガル語の母音を発音してみましょう。



4. 正確には、PE では「イ」以外の母音「エ、ア、オ、ウ」を2種類に、PB では「イ、ア、ウ」以外の母音「エ、オ」を2種類に発音し分ける必要がある。

2.1. 音節

音節は、母音のみ、または前後に子音を伴う母音を中心とした音のまとまりで、発話や韻文のリズムの元となる音声的な単位です。まず、ポルトガル語〈Brasil〉の分節を観察してみましょう。日本語において「ブラジル」は、「ブ・ラ・ジ・ル」の四つの拍になりますが、ポルトガル語の分節では〈Bra-sil〉/bre.ziɫ. | bra.'ziw./と二音節となります（[-]は綴り字上の分節を、[.]は音声の音節の切れ目を示します）。

従って、皆で揃ってサッカーの応援する際などに、ポルトガル語の母語話者が/bre.ziɫ. | bra.'ziw./と分節するところを、日本語風に「ブ・ラ・ジ・ル」の4拍とすると、リズムに乗り遅れてしまいます。このように、音節のまとまり方は言語によって異なります。分節の知識は、語の強勢の位置を特定したり、平叙文、疑問文の音調を理解するにも必要となります。以下の表で基本的な音節構造を学びましょう⁽⁵⁾。

音節の形成には必ず母音が必要となる一方、子音は音節の核を担うことなく、母音の前後に周辺的にあらわれます。表では、Vは母音、V'は二重母音の構成要素である半母音⁽⁶⁾、Cは子音を表します。ポルトガル語の最も基本的な音節構造は、母音の前に一つ子音を伴うCVの形ですが、これ以外にも、母音を中心に前後に二つの子音を取ることができます⁽⁷⁾。また

5. PBでは〈opção〉, 〈pneu〉といった子音の連続を含む語について、子音の連続を避ける目的で子音間に[i]または無声化した[i̥]を挿入し、CVの音節をつくる例が見られる。また、PEの口語では無声子音に挟まれた母音の弱化や脱落に起因した子音連続も頻繁に観察される。詳しくは第6課母音字の読み方を参照。

6. 本書では一音節をなす母音連続としては、下降二重母音のみを認める立場をとる。詳しくは第8課を参照。

7. Cristóvão Silva, T. (1999). Fonética e fonologia do português. São Paulo: Contexto. p.152 参照。

索引

あ

r 音91
 アクセント 20, 23, 24, 33, 35
 異音 11, 81, 82, 91, 92, 93,
 111, 113
 一般疑問文 103, 104, 105,
 106, 107, 108
 イントネーション 103
 裏声 106
 鋭アクセント記号 23, 33,
 34, 41, 42, 47, 51, 52, 58
 円唇 19
 円唇・後舌・狭母音 29
 円唇・後舌・半狭母音 29, 30
 音 17
 音韻的機能 45
 音価 41
 音声器官 17
 音節 20
 音節頭の〈r〉 81, 92
 音節頭の〈m〉 95
 音節末・語末の〈-l〉 87
 音節末の〈r〉 82, 91
 音素 17
 音調 20, 103, 104, 105,
 103, 107
 音添加 82

か

開音節 21, 24
 下降二重鼻母音 57

下降二重母音 20, 47, 49
 カタカナ表記 63
 カタカナ読み 61, 84
 干渉 83, 85
 疑問文 20, 103, 104, 105
 疑問文の音調 20, 103, 104
 逆行同化 99
 旧正書法 45
 強勢 20, 23, 24, 25, 26, 33,
 35, 36, 41, 42, 47, 51, 52,
 80, 88, 96, 105, 112
 強勢音節 35, 100, 103, 104
 強勢母音 24, 35, 112
 強勢前の〈a〉 43
 強勢前の〈o〉, 〈u〉 39
 強勢後の〈a〉 44
 強勢後の〈o〉 44
 曲アクセント記号 34, 41
 気流 69, 71, 75, 87, 88, 92
 口の開き 19
 口蓋垂・ふるえ音 92
 口蓋帆 16
 口腔 16
 降昇降調 103, 105
 降昇調 103, 1105, 106
 後舌 81
 後舌母音 29
 降調 103
 後部歯茎 79
 後部歯茎・破擦音 82
 口母音 16
 呼気 16, 53
 語源的 45
 語中の〈r〉 81

語中の〈-rr-〉 81

語頭の〈e〉 36

語頭の〈r〉 81

さ

最小対 27, 65, 66, 100

三重母音 49

子音 20

歯茎・摩擦音 75

歯擦音 99, 112

舌の前後の位置 19

舌の高さ 19

弱化 36

自由異音 81, 92, 93

順行同化 100

上昇二重母音 23, 49

唇歯・摩擦音 75

新正書法 42, 46, 47

正書法 15, 23, 24, 33, 35,

37, 39, 42, 43, 45, 46, 47,

48, 49, 51, 52, 53, 54, 61,

74, 72, 74, 75, 77, 79, 80,

81, 87, 88, 91, 92, 93, 95,

97, 100, 103, 106

正書法協定 45

正書法上の規則 33, 44, 51,

72, 74, 77, 79, 80

声帯 16

接近音 69, 75, 87, 88

舌尖 91, 92

選択疑問文 106, 107

た

たたき音 61, 91, 113

脱落 20, 26, 36, 44

単鼻母音 53, 61, 64, 66

調音点 79, 83, 87

聴覚印象 17

強さアクセント 23

同音異綴 75

同化 80, 99, 100, 101, 112

同綴り異発音・異義語 35

特殊疑問文 103, 104, 105,
106

な

中舌母音 26, 27

訛り 111

軟口蓋 79, 81, 87, 99, 100,
101, 113

軟口蓋・破裂音 72, 74

軟口蓋・摩擦音 81, 82

二重字 100

二重鼻母音 21, 53, 54, 55,
57, 58, 61, 62, 63, 64, 66

二重母音 47, 52

は

破裂音 21, 69, 71, 72, 74, 85

半母音 20, 47, 51, 88

半母音 /j/ 47

付属オンライン音声教材

PORTUFONE – Pronúncia

使用方法

- 以下の登録ページにアクセスし、ユーザー登録を行ってください。登録完了後、音声教材の使用に必要な情報をお知らせします。

- 登録ページURL

www.

登録記号が必要です

「どこでも出版」で本書を購入した際の「注文ID」を登録記号として使用してください。

2008年3月17日 © 第1版発行
2009年3月18日 © 第2版発行
2010年3月19日 © 第3版発行
2011年3月14日 © 第4版発行
2014年3月16日 © 第5版改訂版発行
2020年3月16日 © 第6版改訂新版発行
2021年3月12日 © 第7版改訂版発行

PCで学ぶ
ポルトガル語の発音
PORTUFONE
— PRONÚNCIA —

著者 彌永史郎 ・ 村松英理子

発行 西東舎

SEITOSHA— QUIOTO, JAPÃO

seitohsha.com

京都市中京区西ノ京春日町16-44

©2020 Shiro Iyanaga
Published by **SEITOSHA** Printed in Japan.
ISBN978-4-9908061-0-1

本書の一部または全部を無断で複写・複製することを禁じます。